

閉会の辞

本日、昨年に引き続きこの地において、慰霊祭を執り行うことができました。御多忙な中、遠方より多数の皆様の御参列を賜り、心から御礼申し上げます。

先の大戦では、ここフィリピンで日本人50万人、フィリピン人100万人を超える数多くの方々が尊い命を落とされました。そして、ここカリラヤの地に戦没者の碑が建立されてから半世紀余が経過しました。この碑の前に立つ時、当時、祖国に残された家族を思い、祖国日本に行く末を思いながら、熾烈な戦いに傷つき、飢えや病に苦しんだ方々、再び祖国の地を踏むことができなかつた同胞の方々の無念さを改めて想わずにはいられません。また、同様に、日本と米比間の戦闘に巻き込まれ、犠牲となった数限りない無辜のフィリピン人の方々、日系人の方々、そしてその御家族の苦悩と計り知れない悲しみも、我々日本人は、決して忘れてはなりません。そのような全ての戦没者の方々の御霊(みたま)に対し、謹んで追悼の意を表します。

未(いま)だ帰還を果たされていない多くのご遺骨のことも、決して忘れません。一日も早くふるさとにお迎えできるよう、国の責務として全力を尽くしてまいります。

戦後、日本は荒廃から立ち直り、世界の中で平和を重んじる国として、名誉ある地位を築きました。戦争の惨禍を二度と繰り返さないとの決然たる誓いを貫き、万人が心豊かに暮らせる世界の実現を目指して参りました。

他方、ロシアによるウクライナ侵略という国際秩序の根幹を揺るがす暴挙が継続しています。中東地域では、昨年10月のパレスチナ武装勢力の攻撃に端を発したイスラエルとの戦闘が継続し、地域の一層の不安定化が懸念される状況となっています。また、我が国を取り巻く安全保障環境は、戦後最も厳しく、複雑な状況にあります。

このような時であるからこそ、改めて、戦争の悲惨さと平和の尊さを深く心に刻み、その記憶を風化させることなく次の世代に継承していくことが私たちの責務であります。

戦後、日・フィリピン両国関係は、両国国民の友情と共通の価値観に支えられ、今や黄金時代とも称される強固な協力関係を築いてきました。来年の戦後80周年を控え、両国の友好・協力関係は経済や安全保障、社会、文化など幅広く裾野を広げ、日比関係の新たな時代の到来を感じさせるものとなっています。苛烈な歴史を乗り越え、このような友好協力関係を築けたことを、戦没者の方々の御霊に御報告するとともに、両国の絆をより一層堅固なものにしていくべく、一層の努力を続けることをお誓い申し上げます。

最後に、尊い命を捧げられ、祖国の礎となられた幾多の方々の御冥福を改めてお祈りするとともに、御遺族の皆様、参列者の皆様、在留邦人の皆様の平安、並びに日比両国間の一層の友好親善を祈念し、慰霊祭の閉会の辞といたします。

令和6年8月15日

駐フィリピン日本国大使 遠藤 和也